

ドイツ映画ゼミナール

パウルとパウラの伝説

Die Legende von Paul und Paula

2016年6月28日(火)

17:15 開場 17:30 開始 20:00 終了

会場 上智大学中央図書館8階L821

主催 上智大学ヨーロッパ研究所

協力 ドイツ映画文化発掘フェスティバル実行委員会

監督: ハイナー・カーロウ
主演: アンゲリカ・ドムレーゼ
 ヴィンフリート・グラツェダー
製作: 1973年東ドイツ

上映作品: ドイツ語
(日本語・英語字幕付)

講演: 日本語

参加費無料

事前申し込み不要

幼い子供2人を育てるシングルマザーのパウラと、キャリア官僚として出世コースまっしぐらのパウル。そんな2人が出会い、激しい恋に落ちる。パウルを一途に思い、純粋に幸せを追い求めるパウラに対し、パウルはエリートとしての立場を捨てきれない。果たして二人の恋の行方は...?



作品上映の前後に、[字幕制作者](#)によるトークがあります！

上田 浩二: ドイツ文化研究者、同時通訳者、翻訳者。筑波大学名誉教授、獨協大学特任教授、上智大学非常勤講師。ドイツ語学院ハイデルベルク学院長。専門はドイツ演劇・ドイツ映画、ドイツ近・現代文化史、日独比較文化研究。2011年12月 ドイツ連邦共和国功労勲章叙勲。

吉川美奈子: ドイツ語映像翻訳家。上智大学外国語学部ドイツ語学科卒。主な字幕翻訳作品: 『帰ってきたヒトラー』『ヒトラー暗殺、13分の誤算』『あの日のように抱きしめて』『ぼくらの家路』『ハンナ・アーレント』『さよなら、アドルフ』『東ベルリンから来た女』『コッホ先生と僕らの革命』『PINA/ピナ バウシュ 踊り続けるいのち』など。

1971年、それまで東ドイツで厳しい文化統制を行ってきたウルブリヒト第一書記が辞任し、エーリヒ・ホーネッカーが党の第一書記に就任。東ドイツは転換期を迎える。ホーネッカーは独自色を出すべく、一時的に解放政策を進めた。映画界への締め付けが緩んだのはそんな時期で、「パウルとパウラの伝説」はその短い期間に生まれた奇跡的な作品である。おカタイ共産圏の映画とは思えない大胆な内容のため、公開と同時に大ヒットを記録。東ドイツでは公開後1年で300万人以上が見たと言われている(当時の人口は約1,700万人)。評判は国内だけにとどまらず、翌年に公開された西ドイツでも大勢の客が映画館で列を作った。しかし主演2人がその後、相次いで西ドイツへ亡命。この作品はタブーとなりTVでの放映が禁止され、「幻の名作」となった。(吉川美奈子)



Copyright: DEFA-Stiftung, Herbert Kroiss, Manfred Damm

■お問合せ先:

上智大学ヨーロッパ研究所 〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学中央図書館7階 721B
Tel: 03-3238-3902 E-mail: i-europe@sophia.ac.jp